

都市再生整備計画事業 事後評価シート(案)

木田駅周辺地区

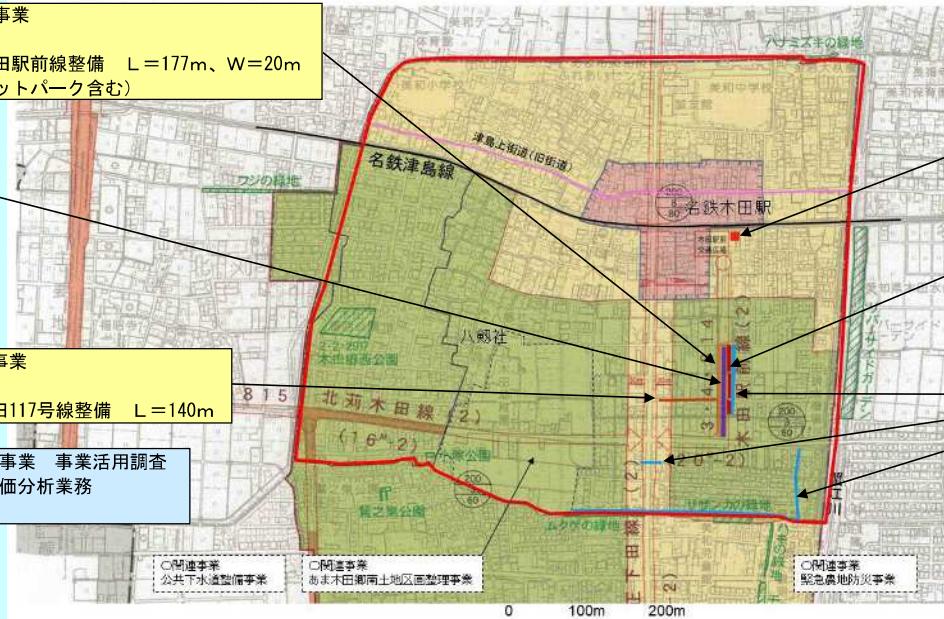
令和7年12月

愛知県あま市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	愛知県	市町村名	あま市	地区名	木田駅周辺地区			面積	77.7ha
交付期間	令和3年度～令和7年度	事後評価実施時期	令和7年度	交付対象事業費	1,649百万円	国費率	0.4		
事業名									
当初計画に位置づけ、実施した事業									
基幹事業 地下式調整池整備事業、市道木田駅前線整備事業、市道木田117号線整備事業、木田駅前駐輪場整備事業、多目的トイレ整備(パリアフリー対応) 提案事業 安全・安心設備事業(水路改修等)、事後評価分析業務、まちづくり協議会活動									
事業名									
当初計画から削除した事業 基幹事業 提案事業									
新たに追加した事業 基幹事業 提案事業									
交付期間の変更 当初 令和3年度～令和7年度 変更 なし									
削除/追加の理由									
削除/追加による目標、指標、数値目標への影響									
1)事業の実施状況									
指標 単位 従前値 基準年度 目標値 目標年度 数値 モニタリング 評価値 目標達成度 1年以内の達成見込み 効果発現要因(総合所見) フォローアップ予定期間									
指標1 災害に対する不安の改善度 ポイント 3(2.5) R2 3(2.7) 令和7年度 3(3.3) ○ あり なし 地下式調整池整備及び幹線水路の改修により、地区内の排水機能が向上し、災害に対する不安の改善が確認できた。また、まちづくり協議会が毎年発行しているニュースレターや、協議会にて開催した工事見学会において、事業の整備状況を報告したことで、災害に対する不安の改善に寄与したと考えられる。									
指標2 地区内の歩行者交通量 人/日 1,395 R2 2,040 令和7年度 2,001 △ あり ● 行き止まりとなっている市道木田駅前線の南伸整備等により、地区内の歩行者交通量は増加すると考えられる。また、台数不足により場外に自転車があふれている駐輪場の拡張整備により、更なる自転車利用が促進され、自転車・歩行者交通量が増加すると考えられる。									
指標3 まちづくり活動参加人数 人/年 30 R2 100 令和7年度 1,316 ○ あり なし まちづくり協議会活動において、地元行事と連携した駅前マルシェの実施や、地区的歴史・文化を伝えるパンフレット「きだのれきし」の作成により、木田駅周辺のまちづくりに関する興味・関心を持つ住民が増えたと考えられる。									
その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況									
指標 単位 従前値 基準年度 目標値 目標年度 数値 モニタリング 評価値 目標達成度※1 1年以内の達成見込み 効果発現要因(総合所見) フォローアップ予定期間									
その他の数値指標1 にぎわいや地域活動の活発化に関する住民満足度 ポイント 3(2.6) R2 3(3.0) ○ あり 土地区画整理事業の宅地化により新住民が増加する中、まちづくり協議会活動において、駅前マルシェの実施やパンフレット「きだのれきし」の作成により、地区のにぎわい創出に係る意識醸成が図られたと考えられる。									
その他の数値指標2									
4)定性的な効果発現状況									
・駅前マルシェの実施により、今後の継続実施に向けた体制構築の機運が高まった。 ・パンフレット「きだのれきし」の作成において、まちづくり協議会を対象としたワークショップを開催したことで、地元住民が地区の歴史・文化を振り返り、新旧住民に守り伝える機会が生まれた。									
5)実施過程の評価									
実施内容 実施状況 今後の対応方針等									
モニタリング なし 都市再生整備計画に記載し、実施できた。 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した。 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった。									
官民連携による取組状況 なし 都市再生整備計画に記載し、実施できた。 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した。 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった。									
持続的なまちづくり体制の構築 新旧住民の交流によるにぎわい創出に向けた駅前マルシェ等のイベントの継続実施 都市再生整備計画に記載し、実施できた。 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した。 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった。									
地元の事業者から協賛金を募る形で資金を調達するなどして、にぎわい創出に向けた取組の継続実施を図る。									

様式2-2 地区の概要

木田駅周辺地区(愛知県あま市)都市再生整備計画事業の成果概要											
まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値							
大目標:安全・安心とにぎわいを生む駅周辺のまちづくり 目標1:誰もが安全・安心に生活できるまちづくり 目標2:駅を安心・快適に利用できるまちづくり 目標3:地域住民の交流によるにぎわいを生み出すまちづくり	災害に対する不安の改善度 単位:ポイント 地区内の歩行者交通量 単位:人/日 まちづくり活動参加人数 単位:人/年	3 (2.5) R2 1,395 30	3 (2.7) R7 2,040 R7 100 R7	3 (3.3) R7 2,001 R7 1,316 R7							
■基幹事業 地域生活基盤施設(地域防災施設) 地下式調整池整備 V=2000m ³	■基幹事業 道路 市道木田駅前線整備 L=177m、W=20m (ポケットパーク含む)	 <p>A map of the Mita Station area in Amma City, Aichi Prefecture. It shows the location of the Mita Station (名鉄木田駅), the Nishio Line (名鉄津島線), and various roads like the Mita Station Front Line (木田駅前線) and North Mita Line (北木田線). The map highlights several projects: <ul style="list-style-type: none"> ■ 基幹事業 道路: 市道木田駅前線整備 L=177m、W=20m (ポケットパーク含む) ■ 基幹事業 地域生活基盤施設(地域防災施設): 地下式調整池整備 V=2000m³ ■ 提案事業 まちづくり活動推進事業: まちづくり協議会活動 木田区 ■ 提案事業 事業活用調査: 事後評価分析業務 木田区 □ 提案事業 駐輪場整備: 高質空間形成施設 多目的トイレ整備 (パリアフリー対応) □ 提案事業 水路改修等: 地域創造支援事業 安全・安心施設事業 □ 開通事業 公共下水道整備事業: あま木田南郷土地区画整理事業 □ 開通事業 緊急農地防災事業 The map also includes a north arrow and a scale bar of 1:10,000.</p>									
□ 提案事業 まちづくり活動推進事業 まちづくり協議会活動 木田区	■ 基幹事業 道路 市道木田117号線整備 L=140m	 <p>A photograph showing a group of people gathered around a table, engaged in a discussion or activity related to community development. This corresponds to the 'まちづくり協議会活動' (Community Development Association activities) mentioned in the text.</p>									
まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 地下式調整池の整備及び雨水幹線水路の改修により、地区内における排水機能が向上した。 市道木田駅前線の南伸整備等により、木田駅周辺における交通利便性や安全性が向上した。また、駐輪場の拡張整備により、既設駐輪場の台数不足が解消された。 多目的トイレの整備により、駅前空間における快適性・利便性が向上した。 まちづくり協議会活動において、地元行事と連携した駅前マルシェの実施や、地区の歴史・文化を伝えるパンフレット「きだのれきし」の作成により、木田駅周辺のまちづくりに関する興味・関心を持つ住民が増えた。 地元住民等で構成される「木田地区まちおこし委員会」を新たに設立し、地元主体による駅前マルシェ等の継続実施に向けた組織体制を構築した。 										
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、安全・安心な生活環境づくりの実現に向けて、木田排水基本計画等に基づき、流出抑制や排水機能向上を検討する。 市道木田駅前線への接続道路の整備や歩道整備等により、一層の安全性向上を図る。 新たに設立した地元主体の組織が、地域と連携・協力しながら、今後も継続して駅前マルシェ等の木田駅周辺のにぎわい創出に向けたイベント開催や、パンフレット「きだのれきし」の活用等による歴史・文化の継承を実施していく。 										

都市再生整備計画事業 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、まちづくり交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区的名称(当該地区的次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 都市再生整備計画事業事後評価委員会の審議

- 添付様式8 都市再生整備計画事業事後評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9—有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標	●				
B. 目標を定量化する指標	●				
C. 目標値	●				
D. その他	●				

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業		当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
事業	事業箇所名	事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	市道木田駅前線整備(ポケットパーク含む)	684.0	L=177m、W=20m	729.0	L=177m、W=20m	計画策定時の概算事業費から修正	影響なし		●
道路	市道木田117号線整備	24.0	L=140m	13.0	L=140m	計画策定時の概算事業費から修正	影響なし		●
公園									
古都保存・緑地保全等事業									
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設(駐車場)	木田駅前駐輪場整備	23.0	A=790m ²	35.0	A=790m ²	計画策定時の概算事業費から修正	影響なし		●
地域生活基盤施設(地域防災施設)	地下式調整池整備	520.0	V=2,000m ³	385.0	V=2,000m ³	計画策定時の概算事業費から修正	影響なし	●	
高質空間形成施設(障がい者誘導施設)	多目的トイレ整備(バリアフリー対応)	22.0		26.0		計画策定時の概算事業費から修正	影響なし		●

※1. 事業費の大額変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
高次都市施設 (観光交流センター)									
高次都市施設 (地方都市リノベーション事業)									
地方都市リノベーション推進施設									
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									
地区再開発事業									
パリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造支援事業	安心・安全施設事業	198.0	住宅地周辺の水路改修	442.0	住宅地周辺の水路改修	計画策定時の概算事業費から修正	影響なし		●
事業活用調査	事後評価分析業務	3.0	事後評価に必要となる目標・成果の達成状況の調査	6.0	事後評価に必要となる目標・成果の達成状況の調査	計画策定時の概算事業費から修正	影響なし		●
まちづくり活動推進事業	まちづくり協議会活動	26.0	まちづくり協議会による地域資源の活用やイベントの開催	13.0	まちづくり協議会による地域資源の活用やイベントの開催	計画策定時の概算事業費から修正	影響なし		●

※1.事業費の大額変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業								
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
あま木田郷南土地区画整理事業	あま木田郷南地区	あま木田郷南地区	1,806.0	1,806.0	平成26年度～令和3年度	変更なし	完了	
公共下水道整備事業			-	-	-	-	-	
緊急農地防災事業	木田排水機場、排水路	木田排水機場、排水路	410	410	平成27年度～令和2年度	変更なし	完了	

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
			基準年度	目標年度	基準年度	目標年度	モニタリング	事後評価	モニタリング	事後評価	モニタリング	事後評価	あり	なし	
指標1	災害に対する不安の改善度	ポイント	木田区の全世帯を対象とした「木田駅周辺のまちづくりに関するアンケート」を実施し、「豪雨時の水はけや災害への安全性」の5段階評価(満足5、やや満足4、普通3、やや不満2、不満1)の平均値を算出する。	3	H25	3 (2.5)	R2	3 (2.7)	R7	モニタリング	●	-	モニタリング	○	
										事後評価	確定	3 (3.3)	事後評価		
指標2	地区内の歩行者交通量	人/日	名鉄木田駅南側駐輪場前における自転車・歩行者通行量調査を実施し、南行き及び北行きの合計通行量を計測するとともに、駐輪場の拡張台数を加算して評価値を推計する。	-	-	1,395	R2	2,040	R7	モニタリング	●	-	モニタリング	△	●
										事後評価	確定	2,001	事後評価		
指標3	まちづくり活動参加人数	人/年	地域住民が開催するまちづくり活動の参加人数として、令和7年度まちづくり協議会(役員会、委員会)の参加人数及び令和7年10月に駅前マルシェの参加人数を計測する。	109	H24	30	R2	100	R7	モニタリング	●	-	モニタリング	○	
										事後評価	確定	1,316	事後評価		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	地下式調整池整備及び雨水幹線水路の改修により、地区内の排水機能が向上し、災害に対する不安の改善がみられ、目標値を上回る結果となった。	特になし
指標2	市道木田駅前線の南伸整備及び木田駅前駐輪場の整備完了により交通利便性や安全性が向上することで、更なる木田駅利用者及び歩行者交通量の増加が見込めると考えられる。	市道木田駅前線の南伸整備及び木田駅前駐輪場の整備は令和8年3月に完了を予定しており、令和7年度の歩行者交通量結果には、駅周辺の道路等の整備による事業効果が反映されていないため、駐輪場の拡張台数を考慮した評価値を見込み値とする。
指標3	地元の出店事業者と連携した駅前マルシェの実施により、まちづくり活動の参加人数が増加し、目標値を上回る結果となった。	特になし

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○:評価値が目標値を上回った場合

△:評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×:評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標		データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)		
指標	単位		基準年度	基準年度	従前値 (イ)	基準年度	数値(ウ)	モニタリング	事後評価	見込み			
その他の数値指標1	にぎわいや地域活動の活発さに関する住民満足度	ポイント	木田区の全世帯を対象とした「木田駅周辺のまちづくりに関するアンケート」を実施し、「にぎわいや地域活動の活発さ」の5段階評価(満足5、やや満足4、普通3、やや不満2、不満1)の平均値を算出する。	-	-	3 (2.6)	R2	モニタリング	確定	●	3 (3.0)	まちづくり協議会では、令和5年度に地区の歴史・文化を継承するためのパンフレット「きだのれきし」の作成・配布、令和6年度より駅前マルシェを実施する等の活動を実施しており、地域活動の活発さに対する住民の満足度を定量的に図る指標としてふさわしいと考えられるため。	指標3を補完して、駅前マルシェの実施等によるにぎわいや地域活動の活発化に関する効果を説明する。

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

- 駅前マルシェの実施により、今後の継続実施に向けた体制構築の機運が高まった。
- パンフレット「きだのれきし」の作成において、まちづくり協議会を対象としたワークショップを開催したこと、地元住民が地区の歴史・文化を振り返り、新旧住民に守り伝える機会が生まれた。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 官民連携による取組の実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i . 体制構築に向けた取組内容	ii . まちづくり組織名:組織の概要	
駅周辺の整備やコミュニティ向上による にぎわい創出等について検討を進め、 今後の地域まちづくり推進団体として継 続を図る。	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	● 新旧住民の交流によるにぎわい創出 に向けた駅前マルシェ等のイベントの 継続実施	木田地区まちおこし委員会	地元の事業者から協賛金を募る形で資金を 調達するなどして、にぎわい創出に向けた 取組の継続実施を図る。

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
府内確認会議(書面確認)	都市計画課、土木課	令和7年12月	都市計画課(都市再生整備計画事業主幹課)

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標2		指標3		その他の指標1 →さわいや地域活動の活性化に関する住民満足度	
指標名		災害に対する不安の改善度		地区内の歩行者交通量		まちづくり活動参加人数			
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	市道木田駅前線整備(ポケットパーク含む)	○	地下式調整池整備及び幹線水路の改修により、地区内の排水機能が向上し、災害に対する不安の改善が確認できた。また、まちづくり協議会が毎年発行しているニュースレターや、協議会にて開催した工事見学会において、事業の整備状況を報告したことで、災害に対する不安の改善に寄与したと考えられる。	○	行き止まりとなっている市道木田駅前線の南伸整備等により、地区内の歩行者交通量は増加すると考えられる。また、台数不足により場外に自転車があふれている駐輪場の拡張整備により、更なる自転車利用が促進され、自転車・歩行者交通量が増加すると考えられる。	○	まちづくり協議会活動において、地元行事と連携した駅前マルシェの実施や、地区的歴史・文化を伝えるパンフレット「きだのれきし」の作成により、木田駅周辺のまちづくりに関する興味・関心を持つ住民が増えたと考えられる。	○	土地区画整理事業の宅地化により新住民が増加する中、まちづくり協議会活動において、駅前マルシェの実施やパンフレット「きだのれきし」の作成により、地区のにぎわい創出に係る意識醸成が図られたと考えられる。
	市道木田117号線整備	○		○	○	○			
	木田駅前駐輪場整備	○		○	○	○			
	地下式調整池整備	◎		-	-	-			
	多目的トイレ整備(バリアフリー対応)	○		○	○	○			
提案事業	安心・安全施設事業	○	安心・安全施設事業 事後評価分析業務 まちづくり協議会活動	-	- - ○	- - ○	- - ○	- - ○	- - ○
	事後評価分析業務	-		-					
	まちづくり協議会活動	○		-					
関連事業	あま木田郷南土地区画整理事業	○	公共下水道整備事業 緊急農地防災事業	○	- -	- -	- -	- -	- -
	公共下水道整備事業	○		-					
	緊急農地防災事業	-		-					

※指標改善への貢献度

- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △: 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	今後も安全・安心な生活環境づくりに向けて、引き続き木田地区排水基本計画等に基づき、流出抑制や排水機能向上に向けた検討を行う。	快適な道路空間の確保に向けて、駅周辺の維持管理を引き続き実施するとともに、更なる安全性向上に向け、接続道路の整備や歩道整備等を検討する。	今後も継続して、駅前マルシェ等の木田駅周辺のにぎわい創出に向けたイベント開催や、パンフレット「きだのれきし」の活用等による歴史・文化の継承を実施する。	今後も継続して、地区的新旧住民の交流に向けて、駅前マルシェ等の木田駅周辺のにぎわい創出に向けたイベント開催や、パンフレット「きだのれきし」の活用等による歴史・文化の継承を実施する。
-------	--	--	---	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別										
指標名										
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	市道木田駅前線整備(ポケットパーク含む)									
	市道木田117号線整備									
	木田駅前駐輪場整備									
	地下式調整池整備									
提案事業	多目的トイレ整備(バリアフリー対応)									
	安心・安全施設事業									
	事後評価分析業務									
関連事業	まちづくり協議会活動									
	あま木田郷南土地区画整理事業									
	公共下水道整備事業									
緊急農地防災事業										

※目標未達成への影響度

- ××:事業が効果を発揮せず、
指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×:事業が効果を発揮せず、
指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △:数値目標が達成できなかつた中でも、
ある程度の効果をあげたと思われる。
- :事業と指標の間には、もともと関係がないことが
明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類I:内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類II:外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類III:外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類IV:内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)			
------------------	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
府内確認会議(書面確認)	都市計画課、土木課	令和7年12月	都市計画課(都市再生整備計画事業主幹課)

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
道路冠水の軽減に向けた安 全・安心な生活環境の整備	地下式調整池の整備及び雨水幹線水路の改修により、 地区内における排水機能が向上した。	引き続き、安全・安心な生活環境づくりの実現に向けて、木田 排水基本計画等に基づき、流出抑制や排水機能の向上を進め ることが課題。	
駅周辺の歩行者・自転車の通 行環境や駅前の公共空間の 利便性の向上	市道木田駅前線の南伸整備等により、木田駅周辺にお ける交通利便性や安全性が向上した。また、駐輪場の 拡張整備により、既設駐輪場の台数不足が解消され た。	市道木田駅前線に接続する道路の整備及び歩道整備等によ る、一層の安全性向上が課題。	
整備した駅前広場に滞在でき る快適な施設環境の一層の 向上	多目的トイレの整備により、駅前空間における快適性・ 利便性が向上した。		
地域コミュニティの結束を高め るためにぎわい形成・魅力 向上に向けた取組の推進	まちづくり協議会活動において、地元行事と連携した駅 前マルシェの実施や、地区的歴史・文化を伝えるパンフ レット「きだのれきし」の作成により、木田駅周辺のま ちづくりに関する興味・関心を持つ住民が増えた。	新たに設立した地元主体の組織において、地域と連携・協力し ながら、今後も継続して駅前マルシェ等の木田駅周辺のにぎわ い創出に向けたイベントを開催し、パンフレット「きだのれきし」 の活用等による歴史・文化の継承を実施していくことが課題。	
地域まちづくりの母体となる組 織の継続	地元住民等で構成される木田地区まちおこし委員会を 新たに設立し、地元主体による駅前マルシェ等の継続 実施に向けた組織体制を構築した。	新たに設立した地元主体の組織において、地域と連携・協力し ながら、今後も継続して駅前マルシェ等の木田駅周辺のにぎわ い創出に向けたイベントを開催し、パンフレット「きだのれきし」 の活用等による歴史・文化の継承を実施していくことが課題。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方
策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を
添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	交通アクセスの向上	・市道木田駅前線の整備及び駐輪場の拡張により交通量の増加が予測される市道北竈木折線において、歩行者及び自転車の安全性を確保するために道路整備及び歩道整備を検討する。	・市道北竈木折線の道路及び歩道整備
	駅前空間のにぎわい創出に向けたイベントの継続実施	・新たに設立した木田地区まちおこし委員会において、駅前マルシェを継続実施するなどして、地区の持続的なにぎわい創出を図る。	・地元住民等で構成される活動組織による、ポケットパーク等を活用した継続的なイベント実施
B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	排水施設の整備・維持管理	・整備した施設の維持管理を行うとともに、木田地区排水基本計画等に基づき、流出抑制や排水機能向上に向けた施設整備を検討し、安全・安心な生活環境を形成する。	・排水施設の整備・改修

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■ 様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

<input checked="" type="checkbox"/>	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
<input checked="" type="checkbox"/>	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
<input checked="" type="checkbox"/>	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
<input checked="" type="checkbox"/>	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
<input checked="" type="checkbox"/>	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に問わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

指 標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無
指標	年度		年度	年度	年度	年度	●	○		
指標1 災害に対する不安の改善度	ポイント	3 (2.5)	R2	3 (2.7)	R7	確定	●	3 (3.3)	○	あり
						見込み				なし
指標2 地区内の歩行者交通量	人/日	1,395	R2	2,040	R7	確定		2,001	△	あり
						見込み	●			なし
指標3 まちづくり活動参加人数	人/年	30	R2	100	R7	確定	●	1,316	○	あり
						見込み				なし
指標4						確定				あり
						見込み				なし
指標5						確定				あり
						見込み				なし

- ・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

フォローアップ計画		
予定時期	計測方法	その他特記事項
R8.9	市道木田駅前線の整備及び駐輪場の拡張が完了した令和8年度に、名鉄木田駅前線における自転車・歩行者通行量調査を実施し、南行き及び北行きの合計通行量を計測する。	

その他の数値指標1 にぎわいや地域活動の活発さに関する住民満足	ポイント	3 (2.6)	R2		確定	●	3 (3.0)			
					見込み					
その他の数値指標2					確定					
					見込み					
その他の数値指標3					確定					
					見込み					

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	・目標を定量化する全ての指標において、数値目標を達成もしくは達成見込みである。	
	うまくいかなかつた点	特になし	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	特になし	
	うまくいかなかつた点	特になし	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	・パンフレット「きだのれきし」の作成にあたり、まちづくり協議会でワークショップを開催し意見を反映したことで、地区の歴史・文化への関心の向上やまちづくりへの参加意識が醸成された。	・地区的まちづくりの機運の向上に向けては、地域住民が主体的に活動に参加できる機会を設けることが重要である。
	うまくいかなかつた点	特になし	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	特になし	
	うまくいかなかつた点	特になし	
その他	うまくいった点	特になし	
	うまくいかなかつた点	特になし	

添付様式6ー参考記述 今後、まちづくり交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区的次期計画も含む)

特になし

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市ホームページに掲載	令和7年12月15日～ 令和7年12月26日	令和7年12月15日～ 令和7年12月26日	都市計画課を受付窓口 とし、郵送・電子メール・ ファックスによる意見を 受け付ける。	都市計画課
広報掲載・回覧・個別配布	広報に公表方法等を掲載	広報12月号に公表方法等掲 載	なし		
説明会・ワークショップ	なし	なし	なし		
その他	都市計画課窓口での閲覧	令和7年12月15日～ 令和7年12月26日	令和7年12月15日～ 令和7年12月26日		

住民の意見	
-------	--

(6) 都市再生整備計画事業事後評価委員会の審議

添付様式8 都市再生整備計画事業事後評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	嶋田 喜昭(大同大学 建築学部教授)				
その他 の委員	川口 正起(木田区 第1区長) 杉本 公夫(木田駅周辺まちづくり協議会 会長)	令和8年1月20日	都市計画課	あま市都市再生整備計画評価委員会要綱	独自に設置
審議事項※1		委員会の意見			
事後評価手 続き等にか かる審議	方法書				
	成果の評価				
	実施過程の評価				
	効果発現要因の整理				
	事後評価原案の公表の妥当性				
	その他				
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認				
今後のまち づくりについ て審議	今後のまちづくり方策の作成				
	フォローアップ				
	その他				
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認				
その他					

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、まちづくり交付金評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署

有識者の意見	
--------	--